

QOL

Quality
Of
Life

QOL
サポーター
新潟

44

2017年9月10日発行
新潟医療福祉大学広報委員会編集



7月、8月、9月の計4日間にわたり「夏のオープンキャンパス2017」が開催されました。県内外から約4,800名の方々にご来場いただき、大盛況で終えることができました。

- Index
- 特集「万全の国家試験対策」
 - 基礎ゼミ 活動・交流会報告
 - 活躍する卒業生の職場レポート
 - 新学生食堂「MOMOcafé」紹介
 - CAMPUS NEWS
 - NUHW SPORTS NEWS
 - 第17回伍桃祭（大学祭）案内
 - 大学院からのお知らせ

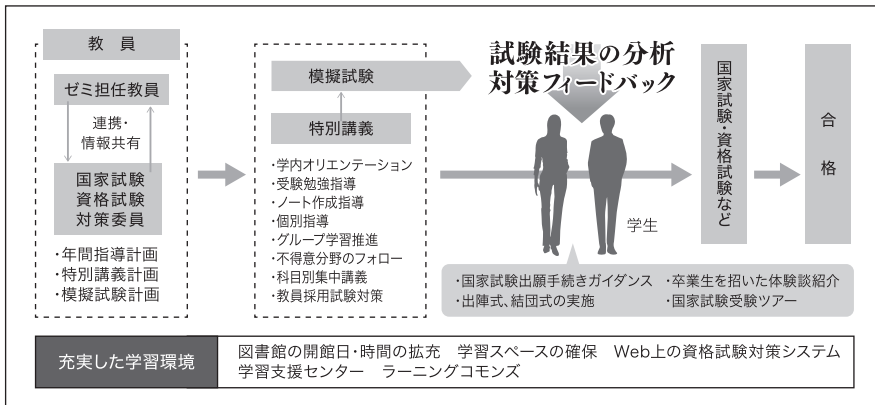


万全の国家試験対策



学生一人ひとりの夢を叶えるきめ細やかな国家試験支援体制を構築し、時代のニーズに応える「優れたQOLサポーター」を輩出している新潟医療福祉大学。今回は、2つの学科の国家試験対策についてご紹介します。

新潟医療福祉大学の国家試験支援体制



学科によって対策方法は異なりますが、全学科で共通している点が、「個人単位でのきめ細かいサポート」です。本学では、卒業研究のゼミの担当教員が、各学科の国家試験・資格試験対策委員と情報共有・連携し、全面的なフォローを行っています。模擬試験の結果を分析し、学生の学習状況や苦手分野を把握した上で、弱点の補強を行うだけでなく、学生一人ひとりに合わせた効果的な学習サポートを行います。また、早期からの動機づけ、受験勉強の指導、個別面談をはじめとしたきめ細かい指導・助言を行い、着実に学習効果が上がる継続的な支援に取り組んでいます。

CACE1. 理学療法学科の国家試験対策

2016年度国家試験合格率100%を達成し、国家試験合格者数ランキングでも全国3位にランクインした理学療法学科。学生数も多い中、全員合格へと導いた秘訣をお伺いします。

2016年度 理学療法士
国家試験合格率
合格者数101名/受験者数101名

100%
全国平均90.3%

第1期卒業以来、13年連続で全国平均を上回る合格実績！

昨年度、実施された第52回理学療法士国家試験において、本学の理学療法学科は合格率100%を達成しました。これは、受験者数が100名以上の養成校において快挙となる実績です。その背景には、理学療法学科としての5つの取り組みが、大きな要因であると思います。

① [早期からの取り組み]

国家試験は入学試験と異なり、一定の基準(合格ライン)をクリアすれば、全員合格できます。成績が伸びない学生の理由の一つに、勉強を開始する時期の遅れがあります。そこで、4年生の前期開始から国家試験の問題形式に慣れてもらうため、インターネットを利用して数多くの問題を解くことから始めました。



② [対策模試の実施]

10月の後期開始から2月の国家試験直前まで、毎週1回のペースで対策模試を実施しました。この模試の成績から、自分の弱点分野を探し出すことができ、苦手分野を克服することができました。また、模試の合計得点の推移は試験当日までの学習計画の立案に役立ちました。

③ [補講の充実]

国家試験の勉強は、難易度の高い問題を解けるように勉強するのではなく、正解率の高い問題を確実に得点できれば、合格点に到達します。そのため、過去に出題された試験問題の難易度を分析して、学科教員による分かりやすい解説を行いました。

④ [学習環境の整備]

大学の協力により学生が集中して学習できるように、毎日終日、土日祝日も国家試験対策室の教室を確保して、学習環境の整備を行いました。

⑤ [教員による個別対応]

国家試験は、4年間で履修した科目の集大成です。そのため、1年生から3年生まで積み上げてきた成績が、4年生の国家試験模試の成績と密接に関係しています。そこで、成績が伸びない学生に対して、教員が毎日勉強方法の相談、苦手分野の克服などを個別に対応しました。

国家試験の難易度は、年々高くなってきており、出題される範囲も広がってきています。そのため、合格率も厳しくなっているのが現状です。本学では2年前に理学療法学科の定員を、80名から120名に増員しました。そのため、今後も合格率100%を継続していくためには、今から国家試験を見据えた取り組みと、対策の工夫が必要になってくると考えています。



執筆/理学療法学科 教授 相馬 俊雄

PICK UP

「AERA MOOK 就職力で選ぶ大学2018」(朝日新聞出版)
国家試験合格(人数)

理学療法士合格者数
全国第3位

理学療法学科101名が受験し
全員合格という快挙も達成!

CACE2. 義肢装具自立支援学科の 国家試験対策

昨年より合格率を大幅に上げた義肢装具自立支援学科。
この1年でどのような対策を行ってきたのかお伺いします。



“テニスは正しいフォームで素振りやストロークを繰り返せば確実にうまくなるが、間違ったフォームでは上達しない。また、正しいフォームでも素振りやストロークの回数が少ないと上達しない。”国家試験対策はこれにとても似ていると思います。

私は昨年着任してすぐに国家試験対策を任されることになったため、まず近年の国家試験の出題傾向を分析し、義肢装具士の国家試験における正しいフォーム(=勉強法)を見つけることに時間を費やしました。分析の結果、「難易度の高い問題は少なく、過去の国家試験の問題から多くが出題されているため、過去問を効率的に学習するのが良い。」という結論に至りました。そこで、すべての学生に過去問8年分の解説ノートの作成と毎週の提出を義務付けました。学生は国家試験1年分の問題を解いた後、A4版のノートを1冊用意し、1ページに2問ずつ問題を貼り付けて解説を書きこみ、8年分これを繰り返して8冊のノートをつくってもらいます。最初の1周はごく簡単な解説を書きこむために空白が大きく残りますが、これを2周、3周と繰り返すうちに解説が詳しくなり空白が少なくなっていきます。私はこれを「ぐるぐる勉強法」と名付け、毎週全学生のノートをチェックして進捗状況を記録してアドバイスを書き込みました。

2016年度 義肢装具士
国家試験合格率
合格者数40名/受験者数43名

93.0%
全国平均87.0%

徹底した国家試験対策により、全国平均を大幅に上回る
合格率を達成!



▲国家試験への見送り/新幹線ホームにて

この方法の利点は、特定の分野だけを詳しく勉強することはできないので、すべての出題範囲を万遍なく網羅できることにあります。国家試験はある程度浅く広く知識を身につける勉強法によって点数が伸びるので、チーズフォンデュの底から部分的にチーズをすくうのではなく、表面のチーズをすべてすくうことに例えてこの勉強法を促しました。また、全学生が同じ方法で学習するため、各教員が個別対策を行う際に学生の進捗や理解度の違いを確認できることも利点として挙げられます。

この勉強法を導入することで、全学生が過去問であればランダムに出題されたり、内容を少し変えて出題されたりしても合格点以上の点数がとれるようになりました。最終的な結果として、合格率は93%となり、昨年の87%を上回るとともに全国平均も大きく上回ることができました。昨年は「ぐるぐる勉強法」を5周以上行った学生は全員合格。よって、今年は正しいフォームだけでなく回数、すなわち質と量を同時に満たすような学習を促す仕組みを学科教職員一体となって構築し、合格率100%を達成したいと考えています。

執筆/義肢装具自立支援学科 准教授 勝平 純司

2016年度 新潟医療福祉大学 国家試験合格率

充実した学習環境ときめ細かい指導により、様々な国家試験で全国平均を上回る合格実績を実現し、開学以来、数多くのQOLサポーターを輩出しています。

Wライセンス合格率 **82.4%** | 合格者数 70人
受験者数 85人

[理学療法士] 100% 全国平均 ▶ 90.3% 合格者数101人/受験者数101人	[作業療法士] 94.0% 全国平均 ▶ 83.7% 合格者数47人/受験者数50人	[言語聴覚士] 97.5% 全国平均 ▶ 75.9% 合格者数39人/受験者数40人	[義肢装具士] 93.0% 全国平均 ▶ 87.0% 合格者数40人/受験者数43人	[臨床工学技士] 90.7% 全国平均 ▶ 81.9% 合格者数78人/受験者数86人	[臨床検査技師] 85.9% 全国平均 ▶ 78.7% 合格者数73人/受験者数85人
[管理栄養士] 97.7% 全国平均 ▶ 54.6% 合格者数42人/受験者数43人	[看護師] 98.8% 全国平均 ▶ 88.5% 合格者数82人/受験者数83人	[保健師] 86.4% 全国平均 ▶ 90.8% 合格者数70人/受験者数81人	[助産師] 100% 全国平均 ▶ 93.0% 合格者数5人/受験者数5人	[社会福祉士] 58.1% 全国平均 ▶ 25.8% 合格者数72人/受験者数124人	[精神保健福祉士] 100% 全国平均 ▶ 62.0% 合格者数13人/受験者数13人

第1期生卒業以来、
国家試験合格者を多数輩出。

第1期生卒業生からの合格者数 = **5,470人**

基礎ゼミ



01 大学での自己成長について

理学療法学科 1年 伊藤 祐輝



私は基礎ゼミ活動を通して、高校とは異なる成長を遂げることができました。基礎ゼミではゼミ長を務めましたが、この経験から私が最も進歩したと感じていることは「自己発信力」です。高校では与えられた枠組みの中で活動を行うことが多かったですが、ゼミ活動では一人ひとりが主体となり責任を持って行動します。例えば、ゼミ対抗で行ったスポーツ交流会では、何をするかを決めること

から始まり、道具の準備、体育館の広さの計測、けがへの配慮を考えたルール表やトーナメント表の作成など、私たちが主体となって考え行動しなければいけません。私は、この経験を通して「自己発信力」を高めることができたと感じています。

02 貴重な学びを共有する

作業療法学科 1年 小林 勇人



基礎ゼミでは、私たち作業療法学科とカナダ・クイーンズ大学との国際交流イベントに関する事前活動を行いました。事前活動では、クイーンズ大学教員の特別講演に向けて、多発性硬化症に対する作業療法について学習しました。また、講演のお礼として折り紙の作品をゼミごとに分担して作成しました。特別講義では、事前学習の内容をもとに、海外の作業療法や疾患に対する理解

を深めることができました。私は、学科の仲間と一緒に英語と日本語を併用してお礼のメッセージを作成しました。そして、特別講義後にメッセージを渡す際には、英語でスピーチをしました。スピーチは緊張しましたが、うまく話すことができ良かったです。基礎ゼミを通じて、普段は触れることのない英語に触れたり、海外の作業療法について知ったりすることができ、貴重な経験を仲間と共有する素晴らしい機会になりました。

03 大学生活をスタートする第一歩

言語聴覚学科 1年 奥山 莉子



言語聴覚学科のゼミ活動では、ゼミごとにテーマを決定し、そのテーマについて調べて発表しました。発表に向けては、ゼミ員同士でたくさん話し合い、何度も修正を繰り返した末に発表内容を完成させることができました。また、交流会では、ソフトバレーボール大会を行い、色々な人とコミュニケーションを取ることができました。

これらの活動を通して、基礎ゼミは大学生活を始めていくため

の第一歩だと感じました。発表に向けたパワーポイントのスライド作成は、慣れない作業で行き詰まることもありましたが、ゼミの仲間と協力し、最後までやりきった達成感は本当に大きかったです。また、ソフトバレーボール大会では、他のゼミとも交流することができ、これらの経験によって大学生活を気持ちよくスタートすることができました。

この先、大変なことや辛いことがたくさんあると思いますが、基礎ゼミで得たことを大切にして、何事も一生懸命取り組んでいきたいです。



基礎ゼミは、1年生の全学生を対象に行われる少人数制のゼミです。学生は7~8名程度のグループに分かれ、各グループを教員1名が担当します。ゼミでは、健康で充実した大学生活を送るための基本的な能力を育むことを目的に、大学での学習方法や心構えなどを指導します。また、ディスカッションを数多く取り入れ、友人づくりやコミュニケーションの場としても活用されます。

04 交流会で感じたこと

義肢装具自立支援学科 1年 野原 ちはる



義肢装具自立支援学科の基礎ゼミ交流会は、ゼミ合同でのバーベキューやスポーツ大会などゼミごとに様々な方法で実施されます。私が所属するゼミではボウリング大会を開催し、その後、焼き肉を食べながら先輩方に大学生活の過ごし方について教えていただきました。特に、実習やノートのまとめ方、定期試験などの勉強の仕方についてのアドバイスは大変参考になりました。

本学科は人数が少ないので、学年の横の繋がりはもちろんのこと、先輩方、先生方との繋がりも強いです。私は基礎ゼミ交流会を通して、コミュニケーションの大切さを改めて実感しました。また、4年間共に切磋琢磨していける仲間もできました。これから義肢装具士を目指すにあたってたくさんの困難があると思いますが、仲間と助け合い、先輩方や先生方にご指導をいただきながら乗り越えていきたいと思っています。これから4年間、頑張ります！

05 交流する大切さを学ぶ

臨床技術学科 1年 新田 颯士



私たちのゼミでは、現在目指している臨床検査技師と臨床工学技士の仕事について調べ、患者さんや病院内での他の医療従事者との関わりを理解し、その内容を発表できるようにパワーポイントと原稿にまとめる活動を行っています。そして、2年生に開講される「連携基礎ゼミ」でこれら2つの国家資格を有した「臨床技術者」についてより詳しく話すことができるような内容に仕上げています。

また、臨床技術学科全体で4月から5月に渡りレクリエーションを行い、ゼミ対抗でソフトバレーボール大会や臨床工学技士の仕事道具でもある鉗子(かんし)を使ったりレーなどを行いました。さらに、ゼミごとで食事に行ったり、BBQを計画したりなどして交流を深めました。ゼミを通じて、臨床検査技師と臨床工学技士の仕事内容を理解することはもちろんですが、様々な人たちと出会い交流することの大切さを学ぶことができました。

06 スポーツ大会を通して

視機能科学科 1年 松本 知美



視機能科学科では、ゼミごとにチームになってスポーツ大会を行いました。種目はバスケットボールでしたが、普段スポーツをしない私は慣れない種目ということと、まだ完全に打ち解けていないゼミのメンバーとどのように競技を進めていけばいいのかを考えて緊張していました。

試合中のみんなは、お互いの名前を呼びあってパスを回したり、声を掛け合ったりしていました。そのような中で自然と会話も増えていき、笑

顔が多くみられたことが印象に残っています。

もう一つ印象に残っていることは、先生方の本気度です。その俊敏な動き、勝つぞという気迫に私たち学生も奮起させられました。スポーツ大会は、普段見ることのできない先生方の一面を見ることができた場でもありました。

スポーツ大会を通して親睦を深めることができたことはもちろん、先生を含めたゼミ全体の結束力を高めることができたと思います。この結束力は、今後の基礎ゼミ活動でも大切になってくるので、素晴らしい機会だったと思います。

04 義肢装具自立支援学科



ボウリング大会 全員で記念撮影♪

05 臨床技術学科



グループワークの様子

06 視機能科学科



スポーツ大会で一致団結!



07 救急救命士を目指す礎に

救急救命学科 1年 八幡 泰成



救急救命学科の基礎ゼミでは、ゼミ対抗で調査結果の発表会を行いました。私が所属する神蔵ゼミでは、学科全員の嗜好に関する調査をし、発表しました。その後、ご飯を食べたり遊びに行ったりして交流を深めました。

救急救命学科には55名の学生が所属しており、半分以上の学生が県外から来ています。入学当初は知らない人が多く、みんなと仲良くなれるか不安でした。そのため基礎ゼミ

に対して堅苦しいイメージがありました。しかし、ゼミでの活動を通してたくさんの人と関わり、協力し合う中で、4年間共に救急救命士を目指す仲間を作ることができました。救急救命士は、隊員や傷病者などとコミュニケーションをとるため、コミュニケーション力が大切な職業です。コミュニケーション力を高めることや友達作り、仲間と団結することの大切さなどを学ぶ機会を与えてくれるのが基礎ゼミだと思いました。

08 基礎ゼミで学んだこと

健康栄養学科 1年 相田 果歩



健康栄養学科の基礎ゼミは、少人数のグループに分かれ大学での生活や学習の仕方を学ぶと共に、自分の夢などの自己アピールを発表することで、学科内交流を深めています。また、自己アピールは、1人1分間話し、将来の夢だけでなく、大学生活でやってみたいことや趣味、郷土のことまで、学科全員の様々な発表を聞くことができ、とても有意義な時間になりました。また、大学生活への適応

やマナー、学びの基礎を習得する一環として、各ゼミ教員からメールマナーについても教わりました。メールを送る際、状況に応じて正しい日本語が使えているか、相手に対し失礼のない文章であるかなどを細かくチェックしていただき、合格をもらえるまで推敲しました。基礎ゼミでは、これからの大学生活をより良いものにするための、心構えを学ぶことができたと思います。

09 団結力を生むきっかけに

健康スポーツ学科 1年 中林 みなみ



私たちは基礎ゼミの教員学生交流会でバレーボール大会を行いました。この活動を通して感じたことが2つあります。1つ目は、基礎ゼミ内の仲間の繋がりが強まったことです。普段基礎ゼミの仲間同士あまり話をする事がなかったため、協力してできるか少し不安でした。しかし、声を出してパスを繋いだり、仲間のミスをかばい合ったりするなど、練習や試合を通じてお互い協力し合うこと

ができました。2つ目は、学科の同級生との関わり方の変化です。自分から話しかけることが得意ではない私にとって、活動の中で自然と話しかけることができたり、普段関わらない人と話せたりする良い機会となりました。私たちのゼミは負けてしまいましたが、活動をきっかけに団結力が生まれたと思います。今後もこのようなゼミ活動に積極的に参加し、様々な人と関わりながら自分の視野を広げていきたいと思っています。



07 救急救命学科

ゼミのみんなで意見交換



08 健康栄養学科

自己アピールの様子



09 健康スポーツ学科

教員学生交流会 バレーボール大会

10 大学生活の基盤を作る

看護学科 1年 高嶋 陽菜



ゼミでは、7～8人の学生に対して1人の先生が担当します。担当の先生は一人ひとりをしっかりサポートして下さるので大学生活での不安なことや気になることなど何でも相談に乗ってくれます。

大学では高校までの「受け身の勉強」から、「自主的な学び」へと学習スタイルを変えていかなくてはなりません。そのため学習スタイルを転換するにはどうすれば良いの

かを、グループの皆で話し合いながら考えていきます。またレポートの書き方や図書館の利用法、社会常識なども学習し、大学生活で基盤となることを学ぶことができました。また授業の時間だけでなく、空いている時間に集まったり、皆でご飯に行ったりしたことで良い信頼関係を築くことができました。

こうした活動を通して、考える力や習慣、協力しやり遂げる力が身についたと思います。

11 可能性を信じる

社会福祉学科 1年 岩波 泰子



基礎ゼミの活動では、地域社会での福祉活動について理解を深めるため、豊栄福祉交流センター「クローバー」へ見学に行きました。利用者の方は、知的障害・身体障害・精神障害のある方々で、今回は主に身体障害者が多く利用している作業部署「ドンバスの家」で、実際の作業体験をしました。その中で最も印象的だった出来事は、全盲の利用者の方が、他の利用者の方と同様の作業に取り組んでいた

ことです。事前学習で、「ドンバスの家のメンバー構成は、身体障害者が中心である」と学んでいたのですが、下肢が不自由な方だけとの思い込みがありましたが、全盲の方が型枠に沿って広告を折る作業をスムーズにこなしている姿に大変驚きました。こうした経験を通して障害福祉サービス事業所として、様々な障害のある利用者を受け入れ、その人自身の可能性を引き出すきっかけをつくり、さらに社会との繋がりを広げることが重要だということ

12 大学生活ははじめの一步

医療情報管理学科 1年 加藤 真琴



大学に入学したばかりの頃は友達ができるか、大学の勉強についていけるかなど様々な不安がありましたが、初めて仲間と協力して行った活動が「基礎ゼミ」でした。基礎ゼミでは、メンバーとの仲を深めたり、先生と話したりする機会がたくさんあったことで活動するのが楽しくなりました。

大学入学後は不安ばかりでしたが、今は友達もでき、真剣に

話を聞いてくださる先生にも出会うことができましたので、基礎ゼミという時間は私にとってとても貴重な時間になりました。また、基礎ゼミを通して仲間と協力して一つの物事をやり遂げることの大切さを学びました。

今後も人との関わりや出会いを大切に、これからの大学生活を充実したものにしていきたいです。今そう思えるきっかけをくれた基礎ゼミに感謝しています。



卒業生
レポート
FileNo
01

相手を知ろうとする 気持ちを大切にしたい



一般財団法人 魚沼市医療公社
魚沼市立小出病院

言語聴覚士
小川 菜々子さん

新潟県 小出高校出身
言語聴覚学科
2005年3月卒業

▶現在の仕事の内容について教えてください

私は、言語聴覚士として病院に勤務しています。言語聴覚士は、その名の通り、言語・聴覚機能に問題を抱えた方に専門的視点で支援する専門職です。また、「話すこと」と「食べること」は同じ口腔で行うことから、食べ物を嚥んで飲み込むことについても支援します。近年は、認知症の方のコミュニケーション障害に関わる機会も増えています。このように言語聴覚士は、小さな子どもから高齢者まで幅広く関わり、問題を抱えながらもできるだけ生活しやすくなるよう、アドバイスを含めたりリハビリテーションを行っています。



▶言語聴覚士を志したきっかけについて教えてください

家族が言語聴覚士にお世話になったことがきっかけです。笑顔が戻った家族を見て、嬉しかったと同時に、「どのようにリハビリを行ったんだろう？」と思いました。その後、将来について考えている時期に職場見学の機会を得て、言語聴覚士は社会貢献度が高くやりがいを持って働ける職業であると感じました。また当時、言語聴覚士の認知度は今よりずっと低い印象だったので、「多くの人に言語聴覚士の仕事を知ってほしい」という気持ちもあり志望しました。

▶言語聴覚士として大切にしていることは何ですか？

私が初めて担当させていただいた患者さんは、失語症で言葉が話すことができませんでしたが、同じ時間を過ごす中で、互いに分かり合えることが増えていきました。周囲の理解を拡大しようと、共に考え、試行錯誤させていただいたことは大切な思い出です。言語障害は、周りから理解されにくいことが多いですが、相手を知ろうとする気持ちを大切に、周囲の協力も得ながら“言語聴覚士だからこそできる支援、多方面から考えること”を大切にしています。

卒業生
レポート
FileNo
02

人生を前向きに 生きるための支援を



新潟県立吉田病院

医療ソーシャルワーカー
鈴木 健介さん

新潟県 村上高校出身
社会福祉学科
2017年3月卒業

▶現在の仕事の内容について教えてください

私は現在、医療ソーシャルワーカーとして、患者様やそのご家族の身体的、心理的、経済的、社会的に抱える問題の解決に向けて一緒に考え、住み慣れた地域で安全に安心してその人らしく生活できるようにお手伝いをさせていただいています。主な業務としては、医療・福祉に関する相談をはじめとした相談援助業務と、退院時に必要に応じて利用する介護サービスなど、患者様やそのご家族の希望に沿った支援を行う退院支援業務を行っています。



▶医療ソーシャルワーカーを志したきっかけについて教えてください

医療ソーシャルワーカーを志したのは、ある方との出会いがきっかけです。その方はもともと仕事をされていましたが、特定疾患のクローン病を患ってしまい、長期間治療に専念することになりました。現在は以前のように仕事をしていますが、何か辛いことや困難に直面した時には、入院中に医療ソーシャルワーカーから受けた支援や励ましの言葉を思い出して頑張っているという話を聞いて、私も関わった患者様が人生を前向きに生きられるような支援のできる医療ソーシャルワーカーになりたいと思いました。

▶本学で学んだことは、現在の仕事にどのように活かされていますか？

介護保険や医療保険などの様々な諸制度についての知識を得たことはもちろんですが、普段の講義でのグループワークやゼミ活動、多職種連携授業などからコミュニケーション力も高めることができました。医療ソーシャルワーカーは、患者様やご家族だけではなく、医師や看護師、ケアマネージャーや施設の職員など、必要に応じて院内外の関係機関と連携するので、良好な信頼関係を築くために身につけたコミュニケーション力とクライアントとの関係性に責任を持つ力が活かされています。



新学生食堂

「MOMOcafé」OPEN!



2017年4月、新たに建設された「第9研究・実習棟」の2階フロアに、約700席を揃えた本学最大の学生食堂「MOMOcafé」がオープンしました。学食内にはカフェスペースもあり、学生の休憩や学習スペースにも活用されています。

MENU

- 本日のおすすめ定食……………¥500
- 今週の定食……………¥450
- アスリート定食×栄養サポート部……………¥480
- 健美定食×栄養サポート部……………¥450
- 本日のおすすめ丼……………¥420
- たれカツ丼(味噌汁付)……………¥400
- 2種類のカレー……………¥380
- カレーライス……………¥320
- 本日よりラーメン……………¥380
- 本日のパスタ……………¥400
- 本日のうどん……………¥300
- 山盛りサラダ……………¥300

など常時17種類以上のメニューを販売
(メニューおよび値段は、8月末現在のものです)

(例) 本日のおすすめ定食



ハンバーグやステーキなど洋食中心の日替わり定食に加え、新潟名物タレカツ丼や栄養サポート部とのコラボ定食を常時販売するなど、豊富なラインナップが楽しめます!

ココがスゴイ!! 栄養サポート部とのコラボ定食を常時販売!



本学の栄養サポート部に所属する学生が監修した定食を常時販売しています。メニューは、本学でスポーツをしている学生向けに考案されたスタミナレシピ【アスリート定食】と総カロリーを500Kcal以下に抑えた【健美定食】の2つ。管理栄養士を目指す学生たちの趣向を凝らしたメニューです!

栄養サポート部 PROFILE 学内外で「食」を通じた様々な活動を実施。これまでにコラボ弁当の販売、子ども食堂へのボランティア、日本代表チームの合宿での食事提供など活動は多岐に渡る。

栄養サポート部部长に直撃インタビュー!



健康栄養学科4年
栄養サポート部 部長 山田 桃佳

Q: コラボ定食を始めたきっかけは?

以前、軽食喫茶Kid'sとのコラボ弁当を販売し、学内の方々から反響をいただいたことがきっかけで、新しい学生食堂とのコラボメニュー販売のお話をいただきました。私たちとしても、栄養サポート部のこと、そして管理栄養士のことをもっと知ってほしいと思い、このプロジェクトを立ち上げることにしました。

Q: 実際に初めて数か月経ちますが、大変なことは?

健康のため、体力向上のために私たちが食べて欲しいものだけを作っても売れないということです。当たり前のことなのですが、私たちはビジネスについて学んでいるわけではなかったので、そこが盲点でした。そのため今は、味はもちろん、見た目・量において満足してもらえる「売れる」メニューの開発や目にとめてもらえるようなPOP作りにも力を入れています。

Q: 今後の目標は?

常時メニューを販売するためには、生半可な気持ちではできません。そのため、後輩に私たちの想いを伝えていき、そして新しいメンバーが入っても継続していけるような土台を築いていくことが今後の課題であり、目標です。あとは、「売れるメニュー」の数をもっと増やしていく必要もありますね!

—ありがとうございました!

新潟医療
福祉大学

学生食堂は他にもあります♪/

カムフレンズ

ふれあい食堂

B・CHALL

軽食喫茶「Kid's」

第17回新潟医療福祉学会 学術集会のご案内

今年度の学術集会は、大会テーマを「未来へつなぐ保健・医療・福祉・スポーツ分野のシミュレーション連携教育」とし、特別講演やシンポジウムなどのプログラムをご用意しています。参加は無料で、事前申込みも必要ありません。多数の方々のご来場をお待ちしています。

日時:2017年10月28日(土)

会場:新潟医療福祉大学

大会長:塚本 康子

(新潟医療福祉大学 健康科学部看護学科 学部長・学科長・教授)

●特別講演

「未来へつなぐシミュレーション教育」

講師:永島 美香(東京医科大学 副学長補 副看護学科長)

●シンポジウム

「未来へつなぐ保健・医療・福祉・スポーツ分野のシミュレーション連携教育」

座長:永島 美香(東京医科大学 副学長補 副看護学科長)

「日本地域政策学会会長賞」 を受賞



日本地域政策学会第16回全国研究【千葉】大会において、学生主体の公募制ポスターセッションが開催され、社会福祉学科4年生の石井美羽さんと山岸笑さんが発表した「新潟水俣病患者支援についてー地域における健康教室の取り組みからー」が、日本地域政策学会会長賞を受賞しました。発表の内容は、新潟医療福祉大学が取り組んでいる自治体からの委託による地域連携活動の一つである新潟水俣病患者支援の健康教室についてです。受賞理由は、学生が「新潟水俣病」という地域にある課題に対して、積極的・継続的に取り組んでいるところが評価されたためです。

これからも、学生たちが地域にある課題に対して積極的に関わることで、地域の福祉に寄与することと学生自身の多様な学びに繋がればよいと考えています。

これからも、学生たちが地域にある課題に対して積極的に関わることで、地域の福祉に寄与することと学生自身の多様な学びに繋がればよいと考えています。

卒業生の三富陽輔先生 (公益財団法人日本水泳連盟所属)が 講義を実施



理学療法学科4期生で公益財団法人日本水泳連盟に所属している三富陽輔先生から、理学療法学科1年生の理学療法概論の授業で講義を行っていただきました。三富先生は、様々な国際大会に競泳日本代表チームのトレーナーとして帯同し、スポーツ分野の理学療法士の一人として活躍されています。授業では、スポーツ分野における理学療法士の役割や具体的な活動内容だけでなく、最前線で活躍するためにどのような努力をしてきたのか、また「学生は今何をしなければいけないのか」など、熱く語ってくれました。学生は目を輝かせて聞き入っていて、授業の最後には活発な質疑応答もあり、授業後も先生の周りには輪ができていました。

第31回笹川流れマラソン大会にて トレーナーブースに参加

2017年4月2日(日)に新潟県村上市で開催されました「第31回笹川流れマラソン大会」にて、新潟アルビレックスランニングクラブ様とともにトレーナーブースを開設しました。



今回のトレーナーブース開設には、健康スポーツ学科の熊崎昌講師の引率のもと、日本体育協会公認アスレティックトレーナー取得を目指す健康スポーツ学科の学生6名が参加しました。1,000人を超える参加ランナーの方々のうち、のべ110人を超えるランナーに來訪いただき、学生メンバーによるストレッチサポートを実施しました。

英国イーストアングリア大学 特別講義を開催

看護学科では、2017年6月1日(木)、国際交流協定締結校 英国イーストアングリア大学から、健康科学部長兼看護学科長 Rosalyn Jowette先生と臨床心理士 Kishita Naoko 先生をお迎えし、特別講義を開催いたしました。Rosalyn Jowette先生からは、「英国の保健医療と看護教育について」、臨床心理士 Kishita Naoko 先生からは、「英国での認知症研究の実際について」分かりやすく講義していただきました。

看護学科はじめ社会福祉学科、義肢装具自立支援学科など、学生と教職員合わせ出席者は、約250名に上りました。学生から「私たち日本人学生が、英国で看護師資格を取得するにはどうしたらよ



いか」「EU離脱による医療や教育への影響はどうか」など、英語で質問する場面もあり、活発な意見交換が行われました。

硬式野球部

関甲新学生野球連盟 新人戦で2年連続2回目の優勝



6月17日(土)から7月2日(日)にかけて行われました、関甲新学生野球連盟 新人戦で本学硬式野球部が2年連続2回目の優勝を果たしました。個人賞には最優秀選手賞に飯塚亜希彦選手(健康スポーツ学科2年)、最高殊勲選手賞に大藪将也選手(健康スポーツ学科2年)が選ばれました。

新人戦主将

大藪 将也 選手のコメント (健康スポーツ学科2年)

この新人戦では「試合に勝つ」という難しさを改めて実感しました。接戦の試合が続く中で、全員が試合に勝ちたいという気持ちで戦えたことが優勝に繋がったと思います。また、一日ごとにテーマを決めた練習を行うことで徐々にチームがまとまっていき、目標に向かって進めていけたと思います。この優勝は自分たちの力だけでなく3、4年生のサポートなどもあり色々な方に感謝したいです。

陸上競技部

第101回日本陸上競技選手権大会 出場選手5名全員が入賞



6月23日(金)～25日(日)に大阪府ヤンマースタジアム長居で、第101回日本陸上競技選手権大会が開催され、本学からは過去最多の5名の選手が出場しました。

前山美優選手(健康スポーツ学科4年)は女子100mに出場し、11秒70で4位入賞を果たしました。同じく女子200mでも、23秒89で4位入賞し、2種目とも2年連続の入賞を果たしました。

また、女子400mでは、椎谷佳奈子選手(健康スポーツ学科3年)が56秒20で、この種目での入賞は初となる8位入賞を果たしました。

男子走高跳には長谷川直人選手(健康スポーツ学科3年)と笠原裕希選手(健康スポーツ学科3年)が出場し、長谷川選手は2m20を跳び3位入賞を果たし、日本選手権初の表彰台に上がりました。また、笠原選手も2m10を跳び8位入賞を果たしました。

男子円盤投では高倉星也選手(健康スポーツ学科3年)が51m30を投げ、8位入賞を果たし、初出場での入賞を果たしました。

今回の大会では、出場選手5名全員が入賞し、合計6つの入賞を果たしました。3日間多大なる応援をいただきありがとうございました。

男子サッカー部

第97回天皇杯 全日本サッカー選手権大会に出場

本学男子サッカー部は、4月9日(日)に新潟市陸上競技場にて行われた「第22回新潟県サッカー選手権大会」決勝で、新潟経営大学に5対0で勝利し、「第97回天皇杯全日本サッカー選手権大会」への出場を果たしました。

4月22日(土)、岐阜メモリアルセンターにて行われた天皇杯1回戦では、岐阜経済大学と対戦し、3対1で勝利しました。そして、6月21日(水)に、大阪市のキンチョウスタジアムにて行われた2回戦では、Jリーグ1部の強豪であるセレッソ大阪と対戦しました。結果は0対2と惜しくも敗れましたが、選手たちはJ1屈指のプロチームに対し、堂々とした戦いぶりを見せてくれました。

今後とも本学男子サッカー部へのご声援を宜しくお願いいたします。



学友会

第17回伍桃祭(大学祭)案内

10/8日
9月祝

今年のテーマ

「百花繚乱」

新潟医療福祉大学は今年の春に17期生を迎え、それに合わせて本学の大学祭である伍桃祭も今年で17回目を迎えることができます。保健・医療・福祉・スポーツの多彩な学科からなる本学ですが、年を重ねるごとにその連携が深まり、質の高い総合大学として進化しています。

17回目となる今年の伍桃祭は、「百花繚乱」というテーマで開催します。このテーマには、『一人ひとりの個性という華を咲かせ、一人ひとりの輝きを放つ伍桃祭にしたい』という想いを込め決定しました。

当日は学科の枠を越えて、また地域のお子様からお年寄りの方まで世代を越えて、ご来場いただいた皆様が楽しめるような様々なプログラムを準備しております。

今年の伍桃祭では、毎年恒例の『模擬店』のほか、クラブ&サークルによるバラエティ豊かなパフォーマンスを行います。迫力のある渾身のパフォーマンスをぜひご覧ください。また、例年にはない体験型のプログラムも多数ご用意しておりますので、ぜひご参加ください!

最後になりますが、伍桃祭は協賛をいただいた企業様やお越しいただく皆様のおかげで成り立っています。今年も多くのご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

10月8日(日)・9日(月・祝)の2日間、新潟医療福祉大学にて、たくさんの方のお越しを心からお待ちしております。

第17回伍桃祭実行委員長兼学友会副会長 板垣 匠

イベント案内(予定)

- お笑い芸人による漫オライヴ
- クラブ&サークルによる発表
- 模擬店
- 大学を巡るスタンプラリー
- 同窓会企画 など

このほかにも
交流イベントが満載です。
ぜひお越しください。



大学院

国際協力機構(JICA)× 新潟医療福祉大学大学院連携 青年海外協力隊等プログラム

JICAボランティアに参加しながら修士の学位取得が可能!

青年海外協力隊等JICAボランティアとして活動しながら同時に修士の学位取得を目指す、画期的なプログラムです。派遣国での活動中も教員の指導を受けることができ、任地での活動が大学院の単位の一部として認められます。国際協力現場での実践を通して、国際保健協力に関わる人材としての資質・能力を高めることを目的としています(派遣前、派遣中どちらの入学も可能です)。

2012年の開設以来、すでに13人の隊員が本プログラムに入学されました。



大学院冬のオープンキャンパスの ご案内

12月2日(土) 10:00~

(昨年開催例)

- ◎ 図書館司書による文献検索セミナー
- ◎ 大学院概要説明会・個別相談など

※オープンキャンパスの詳細情報については
大学院ホームページでご案内いたします。

URL <http://nuhw.ac.jp/grad/>

また、お問い合わせは大学院入試事務室まで
お願いいたします。

E-mail grnyuusi@nuhw.ac.jp

新潟医療福祉大学大学院
Twitterアカウント

 @nuhw_gr



新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
TEL 025-257-4455(代) FAX 025-257-4456
URL <http://www.nuhw.ac.jp/>
スマートフォンサイト <http://www.nuhw.ac.jp/sp/>
【入試事務室】TEL 025-257-4459
E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp

誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっていきます。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポート)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様に本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。

